

海で遊ぼう

出雲市立湖陵幼稚園(島根県出雲市)

[3、4、5歳児]

身近に海がある環境に育ちながら、実際に海に出かける機会は少ない。園外保育で海に出かけることにより、地域の自然を活用して、皆で共通の自然感動体験を味わえるようにする。

子どもの姿 (C=子ども、T=保育者)	◇保育者の受け止め ◆環境の構成と援助
<p>○海へと向かって期待感をもって歩き、次々と声をあげる。「わあ、海の匂いがしてきた!」「潮の匂いだよ」 臭覚 「海の水って辛いんだよ」「そうだよ。塩が入ってるんだよ」 味覚「わあ、海の音も聞こえてきた!」「ザーッ、ザーッという波の音」 聴覚「うわー、海が見えてきた」「大きーい」 視覚</p> 	<p>◇五感を働かせて“海”を感じ取っている。</p> <p>美しい風紋 海岸の砂と海の波の特性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乾いた砂のサラサラとした感触 ・砂山やくぼ地での砂の崩れ具合 ・湿った砂のしまり具合 ・乾いた砂と湿った砂の温度差 ・波打ち際で、波による砂山の崩れ方 ・波の近くで砂を掘ると海水が出現 ・次から次へと押し寄せる波の大きさ
<p>○海に着くと、早速、砂の上に足を下ろし様々な感覚を楽しむ。 5歳C「わあ、サンダルの中に砂がいっぱい入っちゃった」 触覚「私も。だって砂がサラサラだもん。幼稚園の砂とは違うね」 気付き「砂場の砂よりも、もっとサラサラしてるね」 比較・違いの識別</p> <p>4歳C「こうしてお腹をつけるると気持ちいいよ」 砂の温度(体温くらい)・砂の質感を体感「ほんとだ、あったかい。何でかな?」 疑問「お日さまが当たっているからじゃない?」「見てー、砂がキラキラ光っているよ」「何で光っているのかな?」 新たな疑問・探求心の芽生え</p> <p>3歳C 手のひらにのせた砂が、指の間から流れ落ちる感触やその様子が面白く、繰り返しやってみている。</p>	<p>◇運動教室によって得られたバランス感覚は、乾いた砂の斜面でもうまく機能している。</p> <p>◆砂浜海岸の特性を遊びの中に取り入れ、ダイナミックに遊びを楽しむように、必要な用具を準備しておく。</p>
<p>○4歳児が波打ち際の湿った砂を利用して造形遊びを楽しむ。 「乾いた砂は山を作ってもすぐに崩れたけど、ここの砂はなかなか崩れないね」 砂の特性発見「大きなお山ができたぞ。トンネルを掘ろう。そっちからも掘って」「もう少しだから、崩れないように気をつけて。優しく掘ってよ」「あれ?砂が柔らかくなってきたよ」「やったー。トンネルがつながったあ」 ダイナミックな遊びの創造・充実感</p>	<p>◇幼稚園では見られない『非日常的な環境』の中にあっても、その環境に慣れることによって、遊びを工夫・創造させたい。</p>
<p>○砂山を作るために砂を掘る。穴の中の水に気付く。 C「あれー、穴の中に水が溜まってる」 「砂を掘ったら水が出てきたよ!」 気付き ・驚き・不思議「温泉みたいだねー」 「すごいね、不思議だね」 T「あっちの砂を掘っても水が出るのかな」 C「よーし、掘ってみよう」</p> 	<p>◇砂浜の砂は、水分の含む割合によって性質が異なることを、子どもたちは遊びを通して気付き、その性質を利用し楽しんでいる。</p>
<p>○少し離れた場所の砂を掘ってみても、やはり水が出てきた。 C「砂の下では水がつながっているんじゃない」 予想 T「どうしたら確かめられるかな」 確かめる方法 C「穴と穴をつなげてみよう」(仲間を増やし、力を合わせて穴の間を掘り始める) 確かめ「穴をつなげたら水もつながったよ!」 実証・感動</p> 	

みどころ

子どもが大好きな砂遊び。海岸での砂遊びは、砂の感覚や水の様子など、いつも遊ぶ園の砂との違いを発見し、気付いたことを友達と共有し、次第にダイナミックになっていきました。目的をもち様々な感覚によって得たことを取り入れながら、夢中になって協同的な遊びを展開しています。